

国語科指導案

| | |
|------|---------------------|
| 期日 | 平成30年11月2日（金） |
| 対象生徒 | 1年7組 男子14名女子26名計40名 |
| 授業者 | 立和名 猛 |
| 科目名 | 国語総合（改訂版 第一学習社） |

1 生徒の現状や生徒にみられる課題

生徒は意欲的に取り組む。「話すこと・聞くこと」については未実施。苦手意識のある生徒もいる。以下が課題となっている。

- ①「話すこと・聞くこと」（表現力）の向上。1学期に「説明文を書く」単元を行った。その関連的・継続的指導。
- ②「主体的・対話的で深い学び」。特に「協働性」。相互評価。
- ③「高大接続改革」との関連。「ポートフォリオ」に生かしていく指導。

2 研究授業（またはその単元）において育成を目指す生徒の資質・能力

- ①「話すこと・聞くこと」（表現力）の向上。「相手意識」「目的意識」の明確化。
国語総合A「話すこと・聞くこと」
イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ②「主体的・対話的で深い学び」。特に「協働性」。相互評価において、アドバイス・助言できる力。
- ③「高大接続改革」との関連。「学力の3要素」については「自ら課題を発見しその解決に向けて探究」することに関連させる。「多面的・総合的な評価」に関しては自分の進路を踏まえたテーマとして「ポートフォリオ」に活用させる。

3 2の達成へ向けたALの視点からの授業改善のポイント、今回の授業における工夫 など

- ①「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように、指導形態をAL的に実施すると同時に、ALで求められていることそのものを学習目標とする。（特に「対話的」。自分の考えを伝え、それを聞き取り、お互いに助言し合って学びと成長につなげる力。）
- ②「話すこと・聞くこと」のスピーチの実践とする。テーマは生徒の進路に関することとする。2分間程度のスピーチとして、原稿としては700字～800字程度。自分の進みたい大学・学部・学科の魅力を紹介する内容とする。

4 授業の概要

(1) 単元名

大学の魅力を伝えよう（スピーチ） ～ 自分の未来をデザインするために ～

(2) 教材名

「改訂版 国語総合」（第一学習社） 表現の実践②「スピーチをする」

(3) 課題の解決を図る言語活動

「話すこと・聞くこと」

ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。

(4) 単元の目標

- ア 目的や場に応じて、効果的に話そうとする。 (関心・意欲・態度)
- イ 目的や場に応じて、効果的に話す。 (話す・聞く能力)
- ウ 国語における表現の特色及び言語の役割などを理解している。 (知識・理解)

(5) 単元の評価規準

| 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 知識・理解 |
|--------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 内容がよく伝わるよう、語句や表現を工夫して分かりやすく話そうとしている。 | 内容がよく伝わるよう、語句や表現を工夫して分かりやすく話している。 | 内容が効果的に伝わる表現の仕方を理解している。 |

(6) 指導と評価の計画 (全5時間) ※ 研究授業の回は太枠で囲む

| 時 | 学習活動 | 単元の評価規準 | 評価方法 |
|---|--|------------------|----------------|
| 1 | 1 活動全体の説明を行う。 2 良い紹介の仕方について確認する。 3 自分の話題について考える。 | 知識・理解 | 行動の観察 |
| 2 | 1 自分の話題について調べる。 2 調べた内容をまとめる。 | 話す・聞く能力 | 記述の点検 |
| 3 | 1 発表の構成・表現を考える。 2 700字～800字程度の原稿を考える。 | 話す・聞く能力 | 記述の点検 |
| 4 | 1 効果的な表現となるように、プリント(A4・2枚)に内容をまとめる。 2 スピーチを練習する。 | 関心・意欲・態度 | 行動の観察 |
| 5 | 1 各グループで発表する。 2 相互評価を行う。 3 効果的な表現の仕方を確認する。 | 話す・聞く能力 知識・理解 | 行動の観察 記述の点検 |

(7) 本時の流れ (第5時)

| | 学習活動 | 単元の評価規準 (評価方法) |
|-----|---|--|
| 導入 | 1 本時の活動内容を確認する。 2 ルーブリック評価に基づき評価する。 | |
| 展開 | 3 各班(4人)で一人ずつ発表する。 4 相互評価する。 5 班のメンバーを入れ替え、再度発表する。 6 相互評価する。 | 話す・聞く能力 (行動の観察) 「Aの状況」話し方・態度・内容ともに優れている。観察・相互評価によって判断する。 「cへの手立て」生徒間のアドバイスを参考にさせる。声量・目線など具体的に指示する。 |
| まとめ | 7 本時で学んだことを振り返る。 8 スピーチの方法(効果的な表現の仕方)を確認する。 | 知識・理解 (記述の点検) 「Aの状況」話すことに加えて表現活動のポイントを理解し、今後の成長と学びにつなげている。 「cへの手立て」話す力を身につける必要性について再確認させる。 |

5 研究授業を終えて

構想時の課題を踏まえて、研究授業についてふりかえりたい。

① 「話すこと・聞くこと」の指導

該当クラスは、1学期に「説明文を書く」指導を行っていた。対象を決め調査して説明文を書くという学習内容であった。今回は、その後の表現学習の一環として構想したものであった。今回は既知の事柄を未知の相手に伝えるというねらいがあり、「相手意識」の向上を図っていた。今回は未知の事柄を未知の相手に伝えるという設定であった。「書くこと」と「話すこと」の違いはあるが、そういった設定の中で、800字程度で相手に説明するという点が共通しており、前回の指導を生かした。

「国語総合」の指導事項における「イ目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること」の能力を育成するために、調べた内容をどのような構成にすれば分かりやすいか、話す際にどのようにすれば効果的か等の、スピーチやプレゼンテーションの具体的なあり方について学習させた。

工夫した点は3つであった。単元の導入時においてルーブリック評価を示しておき、調査・構成・発表に生かさせること。発表はグループ内とし、1時間内に2回のスピーチをすることで生徒の話す能力の向上を目指すこと。生徒の相互評価において「アドバイス・助言」として良い点と課題を必ず一つずつ書くようにさせて「聞くこと」を充実させるとともに、助言による相互評価がよりよい発表＝学びにつながっていくことを実感させること。以上であった。

2回の発表の間に、相互評価を入れることで、「目線・姿勢」「話し方」などに向上が見られるなど、全体的に概ね満足できる取り組みとすることができた。生徒のふりかえりにも「トーンを変えるだけで伝わり方が変わるということ、相手に身近な話題の提供が大事、何を伝えるかを明確にすべきだということ」「アイコンタクトの重要性に気づいた」「相手に分かりやすく説明するために自分なりに表現することも必要だなと思った」といったものがあり、今後の向上に向けて大切なポイントを自覚している生徒が多かった。

② 「主体的・対話的で深い学び」に関連して

「主体的」な側面については、スピーチの話題が「自分が進学したい・興味のある大学について」という点が大きい。キャリア教育的な観点も含め、1年の2学期においては、まずはその「大学」を選択するだけでも大きな意味がある。さらに、大学における魅力とは何かということ調べたことは、今後の学校生活に生かされ「ポートフォリオ」にできる点も意義あることだと考えた。大学のどの部分に着目し何を発表するかは生徒の判断にまかせてはいるが、「アドミッションポリシー」「興味のある講義」「シラバスを調べる」「興味ある教授」「大学の特色ある取り組み」「就職状況」などを調べさせており、それが生徒の「主体的」な側面につながると考え構想した。生徒のふりかえりには「今まで漠然とやりたいことができる学校に行きたいくらいにしか考えていなかったのですが、本当にそれをするにはどのようなことをして、何を学ばなければいけないのか少し分かった」「大学を調べていくうちに、いろんな大学が出てきて、さらに調べたいと思った。これをきっかけに自分の将来についてももっともっと考えてみようと思った」などがあつた。そういったふりかえりを生徒が示すのも、スピーチそのものが現時点での「自己表明」、その発表による「生徒同士の共有」という働きとなっている点も大きいと思う。

「対話的」の側面については、相互評価の工夫があつた。上記でも述べたように、生徒間で助言し合い能力を向上させていくことは、ALの重要なポイントでもある。その際、「ルーブリック評価」を早い段階で示していくことが大切だと感じた。これからの「評価」は支援 (association) という捉え方が重視される。そういった意味で「良い点」と「課題」を具体的に一つずつ記入させた点も今回の学習で生かされた点だと思う。

このように、生徒の取り組み状況やふりかえりの記述をみても、「概ね満足する」

と言えるが、課題も残った。

特に「ふりかえり」のあり方は今後の指導に生かしていきたいと考えている。今回は、「学習全体の取り組み状況」「相互評価の取り組み状況」「大学を調べたことに関する気づき」「スピーチに関する気づき」という4つの項目を立てて生徒に授業をふりかえらせた。が、授業研究の際に、「生徒を単にふりかえらせるだけでなく、そのふりかえり＝課題の気づきをもとに、今後どのようなことに取り組みたいか、取り組む必要があるかということについて、具体的に記述できる欄をもうける必要があるのではないか」という指摘があった。確かに、生徒自身が自分の課題を気づかだけで終わらせるだけでなく、次の具体的な目標・取り組むことを書かせることによって、生徒の学びをより確かなものにする事ができる。ALの取り組みとして、今後の指導に生かしていきたい。

スピーチのルーブリック評価

| | 目線・姿勢 | 話し方 (音声) | 内 容 (理解・正確さ) | 表 現 (興味・印象) |
|-----------|------------------------------------|---|---|---|
| 0点 | ずっと下を見て、全く目線を合わせずに話している。 | 早口だったり、極端にゆっくりだったりして、声が小さく聞き取れない | 内容が整理されておらず、何を伝えたいのか分からない。 | 聞き手のことを考えず、表現の工夫が見当たらず、印象に残らない。 |
| 1点 | 時折、顔を上げて話している。 | 内容が理解できるスピードと音量で話している。 | 全体として内容を理解することができるが、主題があいまいだったり、説明不足の部分があったりする。 | 聞き手のことを考えているものの、もう少し表現の工夫した方がよい部分がある。 |
| 2点 | 顔を上げて、聞き手とアイコンタクトを交わしながら、堂々と話している。 | 声のスピードや声量も聞き取りやすく、緩急や抑揚、強弱をつけるなどして、感情豊かに堂々と話している。 | 主題が明確で、構成が整理され、内容を理解することができる。 | 聞き手のことを考えて工夫していると思われる表現があり、興味を引く。 |
| 3点 | | | 主題が明確で構成が整理されている上に、聞き手の知識の有無を理解して、語句や用語も適切に説明しており、大変わかりやすい。 | 聞き手のことを考えて効果的な表現を取り入れたり、質の高い表現にしたりして、興味深く強く印象に残る。 |

※ 基準点は網掛けの点です。普通に良いと思ったら、網掛けの点にしましょう。

チェックスピーチのポイント

| | |
|---|--|
| 1 | 情報を分かりやすく、正確に、興味深くなるように伝えているか。 |
| 2 | 聞き手が知らないことを考慮せずに、説明不足になっていないか。 |
| 3 | 「基礎情報」と「メインの情報」が明確になっているか。 |
| 4 | 表現の工夫の例 <ul style="list-style-type: none"> ・話題と聞き手を関連づける ・トピックの重要性を伝える ・聞き手を驚かせる ・聞き手の好奇心を刺激する ・聞き手に問いかける ・引用ではじめる ・キャッチコピーでまとめる ・引用で終える ・導入の内容とつな |
| 5 | 構成は、導入→本論→まとめの順で、わかりやすいものになっているか。 |
| 6 | 目線、姿勢、ジェスチャー |
| 7 | 声の大きさ、声の高さ、話す速度、間の取り方、声の調子（抑揚・変化） |
| 8 | プリントの内容は、効果的・適切なものになっているか。 |
| 9 | 自分らしく、笑顔で、いきいきとスピーチすることができたか。☺ |

「未来」(大学・学部・学科)を発見しよう! ～ 3年後の自分をデザインするために ～ ①

1年()組()番氏名()

1 目的

- ① 「話すこと・聞くこと」の力を高めよう。
 - ・「目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること」ができるようになるろう。
- ② 「スピーチ」する力を高めよう。
 - ・将来、「面接」で困らないように、今のうちに、力を高めておこう。
 - ・自分の考えを「目的」「相手」に応じて分かりやすく話す力は最重要な力。
 - ・相手に興味を持ってもらえる「内容」と「話し方」ができるように工夫しよう。(→「効果的」)
- ③ 「大学」のことを調べて、クラスみんなで共有しよう。
 - ・大学と学部に関して、「文理選択」が迫っている今だからこそ、考えるきっかけにしよう。
 - ・インターネット(大学のホームページ)、進路資料室、図書館を駆使して、情報を収集しよう。
 - ・自分の将来に関わることで、興味・関心のあることを見つけ出そう!

2 スピーチの目的・内容

・**自分が進みたい大学・学部・学科の紹介をする。**

→ 魅力を伝える

- ・ 研究・講義, 教授・先生方, アドミッションポリシー
- ・ 資格取得, 留学, 就職状況
- ・ 地域性, ボランティア, サークル等
- ・ 自分との関連性 (なぜ, その大学・学部・学科なのか)

3 学習の流れ

| | 学習活動 | 備考 |
|-----|---|----|
| 第1時 | 1 学習内容・活動の確認 2 良い紹介の仕方について確認する。 3 自分の話題について考える。 | |
| 第2時 | 1 自分の話題について調べる。 2 調べた内容をまとめる。 | |
| 第3時 | 1 発表の構成・表現を考える。 2 600字～700字程度の原稿を考える。(2分間スピーチ) | |
| 第4時 | 1 スピーチを効果的にするためのプリント(2枚)を作成する。 2 スピーチ練習をする。 | |
| 第5時 | 1 各グループ内で発表する。 2 相互評価を行う。 3 効果的な表現の仕方を確認する。 | |

1年()組()番氏名()

○「大学・学部・学科」調べ (太文字は必ず記入すること)

| | |
|---|--|
| ◎大学・学部・学科名 | 鹿児島大学・法文学部・人文学科 |
| 説明 | 人文学科では、グローバル化、少子高齢化、高度情報化などにより地域社会が抱える諸問題に対して、人文科学の体系的知識をもとに、人と文化に関する論理的・科学的思考力と、多様性に対応したコミュニケーション力をもって、実践的に対処できる人材の育成を目指しています。 |
| コース | 多元地域文化コース |
| 説明 | |
| 1 住所 | 〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21番30号 |
| 2 アドミッション・ポリシー (入学者受入方針) ホームページを活用しよう。 | 1 入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) 法文学部は、情報化、国際化および地域の変化に伴う諸問題に適切に対処できる現実的な問題解決能力をもつ人材の育成を教育目標にしています。 <入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) > 1. 求める人材像 ・ 人文社会科学を学ぶ上で必要となる幅広い基礎学力を備えている人 ・ 地域社会と世界の人間・文化・社会に関心をもつ人 ・ 現実に即した問題解決能力・言語能力・情報処理能力の習得に意欲のある人 ・ 大学で自分の将来および可能性を探求する意欲のある人 2. 入学前に身に付けておいて欲しいこと 入試で課されている教科を中心とした幅広い基礎学力 ・ 国語の基礎学力 ・ 外国語の中でも特に英語の基礎学力 ・ 地歴・公民における社会科学の基礎知識 ・ 数学の基礎学力 ・ 理科における自然科学の基礎知識 ・ その他学科の特色に応じて求められる能力 3. 入学者選抜の基本方針 (一般入試・推薦入試Ⅱ共通) ・ 大学入試センター試験では幅広い基礎学力が身につけているかどうかを判定します ・ 個別学力検査では学科ごとの教育内容と入試の特色に応じて必要な意欲・関心につき判定します。 (鹿児島大学HP) |
| 3 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) | 「基礎」・「活用」・「実践」 自ら習得した知識を自らの考えに即して他者に説得的に伝える能力を身につけるとともに、南九州特有の歴史・文化・社会や高度な専門的職業につながる分野についての知識を習得し、現場を熟知し、他者と協働し実践できる能力を備え、現場、地域社会、及び国際社会に積極的に貢献 |
| 4 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) | 南九州特有の歴史・文化・社会についての知識を専門的分野で活用することのできる能力 |
| 5 講義 (講師) | 表象文化論 (中路武士) |
| 6 シラバスでの説 | 日本映画の歴史的展開のプロセスについて、文化史・芸術史・産業史・技術史・文学史の観点を踏まえつつ、概 |

| | |
|------------------|--|
| <p>明</p> | <p>説する。本講義では、日本映画の誕生（映画伝来）、活動写真の製作、無声映画（サイレント）の成熟から発声映画（トーキー）への移行、黄金時代の映画、戦時下・占領下の映画、ニュー・ウェーブとプログラム・ピクチャー、スタジオ・システム解体と日本映画の衰退などのトピックを取り上げ、今日に至るまでの日本映画の歩みに関して、幅広く考察する。そして、歴史的に重要な映画作家を紹介しながら、作品鑑賞の時間を設けて、ケーススタディを行う。歴史的なパースペクティヴをもって、現代の日本映画について理解を深め、今後の日本映画の行方を構想できるような、批判的で創造的な視座を身につけてもらいたい。</p> <p>■学修目標</p> <p>(1) 日本映画について理解し、説明できる。</p> <p>(2) 映画史・映画理論の基本的な知識と思考法を身につける。</p> <p>(3) 視聴覚的表象を批判的に読解できる。</p> <p>(4) 映画史をとおして、メディア化した社会を批判的に考えることができる。</p> <p>(鹿児島大学HP)</p> |
| <p>7 研究・研究室</p> | |
| <p>8 教授</p> | <p>中路 武士 Nakaji Takeshi</p> <p>「映画が発明されて、人生が三倍面白くなった」——『ヤンヤン夏の思い出』（エドワード・ヤン監督、2000年）という映画に登場する素敵な台詞です。映画を見るという経験を通して、様々な国や地域の歴史や文化に触れることで、人生は何倍も面白くなるでしょう。映画は、他者を、そして世界を観察し認識するためのツールであり、映像と音によって思考するためのメディアです。映画を通して学ぶ意義を知り、自らの問いを立て、手を動かし、世界を拓けていきましょう。（鹿児島大学HP）</p> |
| <p>9 出版物・講演等</p> | <p>これからのハリウッド映画を牽引する映画監督、クリストファー・ノーラン。彼の映画で外せないテーマである「フィクション」や「嘘と真実」を通して、全作品を読み解いていく。各作品において「嘘」がどのように中心的な役割を果たし、観客である私たちは、何に翻弄され欺かれ、ノーラン特有の巨大な「嘘」に巻き込まれているのか。そのようなノーラン映画の構造に着目し、虚構（嘘、妄想、夢、偽装など）を作り込むためにどのような仕掛けを施しているか、その映像と物語の展開の巧みさを、哲学や精神分析理論からも考察。ノーラン映画ファンはもちろん、哲学や精神分析学に関心のある方まで、読み応えのある1冊です。</p> <p>気鋭の映画・メディア研究者、<u>中路武士氏による詳細なノーラン作品解題も収録!</u></p> <p>(Amazonより)</p> |
| <p>10 特色ある活動</p> | <p>「地域人材育成プラットフォーム」</p> <p>地域に関連した所属学部以外等の授業の受講</p> <p>→ 将来、鹿児島で就職（奄美大島）自分にとって最適！</p> <p>→ 実践力を身につけたり、人脈を作ったりすることができる！！</p> |
| <p>11 大学院</p> | <p>(大学院進学 → 一端、東京方面の大学院に行くのが希望)</p> |
| <p>12 留学</p> | |
| <p>13 地域性</p> | <p>鹿児島大学×鹿児島コミュニティシネマ「そうだ、映画をみよう！そして、映画について考えてみよう！」 vol.1 開催のご案内</p> <p>李相日監督 × 中路武士（鹿児島大学准教授）</p> <p>『許されざる者』を中心に、映画の演出方法や製作現場の話を伺います。</p> <p>質問も募集します。</p> <p>日 時：8月3日（日）14：00～16：00</p> <p>会 場：鹿児島大学郡元キャンパス</p> |
| <p>14 就職状況</p> | |
| <p>15 その他</p> | |

「未来」(大学・学部・学科)を発見しよう! ～ 3年後の自分をデザインするために ～ ②

1年()組()番氏名()

○「大学・学部・学科」調べ (太文字◎は必ず記入すること)

| | |
|------------------------------------|---|
| 大学・学部・学科名 | ◎ |
| 説明 | ◎ |
| コース | |
| 説明 | |
| 1 住所 | ◎ |
| 2 アドミッション・ポリシー (入学者受入方針) | ◎ |
| ホームページを活用しよう。 | |
| 3 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) | |
| 4 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) | |
| 5 講義(講師) | ◎ |
| 6 シラバスの説明 | ◎ |
| 7 研究・研究室 | |
| 8 教授 | |
| 9 出版物・講演等 | |
| 10 特色ある活動 | |
| 11 大学院 | |
| 12 留学 | |
| 13 地域性 | |
| 14 就職状況 | |
| 15 その他 | |
| | |
| | |
| | |

「未来」（大学・学部・学科）を発見しよう！ ～ 3年後の自分をデザインするために ～
 1年（ ）組（ ）番氏名（ ）

○スピーチ整理表

| | 項目 | 内容 | メモ |
|---|----------------------------|---|--------------|
| 1 | テーマ | 自分が希望する大学・学部・学科の魅力を伝える（共通） | |
| 2 | 大まかな目的 | 情報を伝える（共通） | |
| 3 | ゴール | 鹿児島大学・法文学部・人文学科・多元地域文化コースに対して ①基本情報と（共通） ②中路武士准教授の研究・講座が興味深いことについて、 クラスメイト（聴衆）に知らせる。 | |
| 4 | サマリー センテンスⅠ (基本情報) | 人文科学について様々な分野を学んだり、「地域人材育成プラットホーム」によって地域の就職に生かしたりすることができる。 | ※一文で、具体的に書く。 |
| | サマリー センテンスⅡ (本論 メイン) | 中路武士准教授のもとで映画の研究をすることができる。 | ※一文で、具体的に書く。 |

○スピーチ構成表（展開）

| | 項目 | 内容 | 工夫する点 |
|---|--------------|--|--------------------|
| 1 | 導入 (30)秒 | ①人文学科では、文学・社会学・心理学などが学べる。 ②私はエンターテイメント業界・映画に興味がある。 ③多方面から学ぶことができ、将来に生かすことができるだろう。 | |
| 2 | 本論 (60)秒 | ①中路先生の研究に興味がある。 ②「映画が発明されて、人生が三倍面白くなった」という映画のセリフを紹介している。 ③「表象文化論」という授業を通して、これからの日本映画について考えてみたい。 | 「引用」を効果的に用いる。 |
| 3 | まとめ (30)秒 | ①「地域人材育成プラットホーム」では、「地域に関連した所属学部以外等の授業」の受講が可能である。 ②将来は、最終的に奄美に戻って就職したいと考えている私にとって最適だ。 ③奄美市内にある「鹿児島大学国際島嶼教育センター」に足を運んでみたい。 | 身近な「島嶼教育センター」に触れる。 |

「未来」(大学・学部・学科)を発見しよう! ~ 3年後の自分をデザインするために ~
 1年()組()番氏名()

○スピーチ整理表

| | 項目 | 内容 | メモ |
|---|----------------------------|--|-----------------|
| 1 | テーマ | 自分が希望する大学・学部・学科の魅力を伝える | |
| 2 | 大まかな目的 | 情報を伝える | |
| 3 | ゴール | ()に 対して ①基本情報と ② クラスメイト(聴衆)に知らせる。 | ※大学・学部・学科名を入れる。 |
| 4 | サマリー センテンスⅠ (基本情報) | | ※一文で具体的に |
| | サマリー センテンスⅡ (本論・メイン) | | ※一文で具体的に |

○スピーチ構成表(展開)

| | 項目 | 内容 | 工夫する点 |
|---|-------------|----|-------|
| 1 | 導入 ()秒 | | |
| 2 | 本論 ()秒 | | |
| 3 | まとめ ()秒 | | |